



9月の名曲全集には、フェスタサマーミュージックのフィナーレを指揮する原田慶太楼が登場！  
プログラムは原田マエストロが昔から好きだというヴォーン・ウィリアムズの作品で構成されました。  
公演で取り上げられる作品を中心に、意外と日本では知られていない  
ヴォーン・ウィリアムズの魅力についてご紹介します。

# RVW



©Claudia Hershner



©Hikaru★

©Dario Acosta



ミュージック川崎シンフォニーホール&東京交響楽団

## 名曲全集 第169回

9月18日(土) 14:00開演

指揮:原田慶太楼

ソプラノ:小林沙羅\* バリトン:大西宇宙\*

管弦楽:東京交響楽団

合唱:東響コーラス(合唱指揮:富平恭平)\*

[曲目]

V.ウィリアムズ:グリーンズリーヴスによる幻想曲

V.ウィリアムズ(ジェイコブ編):イギリス民謡組曲

V.ウィリアムズ:海の交響曲\*

[チケット] 好評発売中!

S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000

陶磁器メーカーとして有名なウェッジウッド家の娘を母に、そしてチャールズ・ダーウィンを大叔父にもつ彼は、父を2歳の時に亡くしたものの、裕福な家庭で不自由なく育ちました。フルネームはレイフ・ヴォーン・ウィリアムズで、ファースト・ネームのつづりは“Ralph”ですから、本来は「ラルフ」とするべきなのですが、彼は古風な「レイフ」という発音にこだわりがあったとのこと。

そんな彼が作曲家を志したのは、イギリスの音楽シーンに対する不満からでした。18世紀までのイギリスは、他の欧州諸国から「音楽不毛の地」と

呼ばれ、(ヘンデルまで遡れば別ですが)自国特有の個性のある音楽をほとんど持っていませんでした。ヴォーン・ウィリアムズは盟友ホルストとともにイギリス各地の民謡やキャロルを収集し、それらを作品にも取り入れました。9月の名曲全集でも取り上げる《イギリス民謡組曲》は、そうした研究の成果のひとつです。20世紀の前衛の音楽が台頭するなかであって、彼の作品は一見地味にみえるかもしれませんが、イギリスでは大変人気があります。それは彼が自国の音楽と呼ぶべき作風をもってしていることにも関係しているでしょう。

コンサートの中心となるのは、ヴォーン・ウィリアムズの作品の中でも最も規模の大きいもののひとつ《海の交響曲》です。コントラファゴット、ハーブ、パイプオルガンを含む巨大編成に加え、ソプラノとバリトンのソリスト、混声合唱まで必要とするこの作品。当館会報誌「スパイラル」でのインタビューにおいて、原田マエストロは「自分と同じ年齢に書かれた曲を取り上げるのがマイブーム」と述べており、この曲に対する思い入れの強さをうかがわせます。

気合十分の原田慶太楼によるヴォーン・ウィリアムズ特集、ぜひお聴き逃しなく!



パートナーショップのご紹介  
**エンジョイ!**  
**川崎!!**  
Enjoy Kawasaki

### 夏に最適! クーラーで冷えた身体を温める!



10種の野菜とチキンレッグのスープカレー(税込1,155円)

ミュージックのすぐそば、川崎ルフロンの無添加スープカレー&スパイスカレーCOSMOSで10種の野菜とチキンレッグのスープカレーをテイクアウト。もちろん店内で食べることも可能です。辛さは小辛と中辛と辛口から、ライスの量は普通と大盛から選ぶことができます。今回はライス普通の中辛で注文。

いわゆるスパイスカレー独特の香りが少し苦手...という方でも食べやすい風味です。チキンレッグもテイクアウト容器半分以上を埋める大きさで、なかなかのインパクト! 味はサッパリ、身がホロホロでスープによく合います。

この夏、心はコンサートでポカポカに、身体はCOSMOSのカレーで温めて調子を整えるのはいかがでしょうか。

(受付Kほぼ毎日カレー)

サマーミュージック公式サイト  
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>



#サマーミュージックで投稿してください!



Twitter: @summer\_muza



Facebook: @kawasaki.sym.hall



Instagram: @muzakawasaki

(経営管理課N)



ザ!  
ガンバレ、ミュージック!  
ン!... 違った...  
ガンバレ、ニッポン!  
ちなみに私は、事務所にてスタッフみんなのご活躍を全力で応援しています。

それでもお客様の喜ぶ顔、出演者の笑顔が見たくて全力で取り組んでいます。だから最後にスタッフのみんなも笑顔になれたら...。(マスクでわからない?)  
さて、フェスタもいよいよ最終コーナー。「ミュージック川崎シンフォニーホール」の底力をみなさまにお見せしましょう。もうひと頑張りです。

ほぼ毎日  
**日刊サマーミュージック**  
Hobo Nikkan Summer Muza

スタッフ日誌

今回の「サマーミュージック」は「コロナ禍で迎える2回目の夏」となりました。さまざまな影響を受けながらも、スタッフはこの夏に向けて大胆な企画と細心の準備でお客様をお迎えしています。